

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1 単位	選択
担当教員			
陣内 吉田 中尾 花城 友廣 戸田 澤田 座間味 小浦 藤野			

講義概要	<p>①設定したテーマについて調査学習する。関連事項について文献資料などを収集し熟読する。各教科が横断的に関連していることを理解する。</p> <p>②議論の際に他者の意見を聞く姿勢を学ぶ。結論を導き出していく過程を学ぶ。情報リテラシーについて理解する。</p> <p>③問題を解決するために様々な視点の情報を収集する。様々な立場からの意見を聞く。自己の意見を再構成する方法を学ぶ。</p> <p>④取り組んで行く課題を自己の問題として考察する。調べた内容をまとめ発表する。お互いに発表要項をまとめる。</p> <p>⑤ゼミ発表会で他ゼミの発表を聞く。発表内容について理解を深める。ゼミ仲間と協力して取り組んだことを振り返る。</p>																						
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>分野1</td><td>陣内 敦 造形を通した子育て支援 造形ワークショップ実践による子どもと子育て事情の理解について ・子どもや保護者とのコミュニケーション能力の涵養 ・研究成果レポート作成とプレゼンテーション</td></tr> <tr> <td>分野2</td><td>吉田美恵子 センス・オブ・ワンダー ・園訪問や子育て支援・地域交流に参加実践し、調査・考察をする ・文献や資料、講演会・研修などの記録をまとめ保育者の役割を明確にしていく</td></tr> <tr> <td>分野3</td><td>中尾健一郎 運動遊びによる実践活動 ・調査した内容から運動遊びを考案し、実践する ・実践した内容をまとめ、発表する</td></tr> <tr> <td>分野4</td><td>花城暢一 地域の子育て環境について考える～地域交流・フィールドワークを通して～ ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発を通して保育者に必要な資質を身に付ける ・地域の子ども達との交流活動を企画運営し、フィールドワークを実施する ・活動内容をまとめ、学んだことや感じたことを発表する</td></tr> <tr> <td>分野5</td><td>友廣憲子 保育における音楽教育を考える ・さまざまな音楽活動のディスカッションを行う ・保育現場に出向き音楽活動を実践する ・音楽活動を実践し考察した内容をまとめ発表する</td></tr> <tr> <td>分野6</td><td>戸田恵理子 子どもとあそびについて ・子どもの主体的なあそびに大切な保育の環境を考える ・制作した保育教材を保育場面において活用し、改良点等の再考（再製作）を行う ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等に参加し習得した保育者に必要な要素をまとめ発表する</td></tr> <tr> <td>分野7</td><td>澤田須賀子 子どもの育つ保育環境 ・調査した内容を基に、実践・考察をする。 ・保護者へ伝える環境構成について考える</td></tr> <tr> <td>分野8</td><td>小浦康平 長崎短期大学ヴァーチャル幼稚園（仮） ・幼稚園の年間行事の疑似体験を題材に、パソコンスキルの強化をはかる。 ・年間スケジュールに沿って幼稚園の主要行事を計画・疑似体験・考察し、行事の前後に必要な書類の作成スキルを身につける。 ・成果物として、職場ですぐに役立つような保護者への手紙やポスター、園だよりなどをパソコンで作成しファイリングする。</td></tr> <tr> <td>分野9</td><td>藤野正和 子どもの心の発達と障害について ・子どもの心の発達に必要な要素について理解する。 ・子どもの心の発達と障害との関係について理解する。</td></tr> <tr> <td>分野10</td><td></td></tr> <tr> <td>分野11</td><td></td></tr> </table>	分野1	陣内 敦 造形を通した子育て支援 造形ワークショップ実践による子どもと子育て事情の理解について ・子どもや保護者とのコミュニケーション能力の涵養 ・研究成果レポート作成とプレゼンテーション	分野2	吉田美恵子 センス・オブ・ワンダー ・園訪問や子育て支援・地域交流に参加実践し、調査・考察をする ・文献や資料、講演会・研修などの記録をまとめ保育者の役割を明確にしていく	分野3	中尾健一郎 運動遊びによる実践活動 ・調査した内容から運動遊びを考案し、実践する ・実践した内容をまとめ、発表する	分野4	花城暢一 地域の子育て環境について考える～地域交流・フィールドワークを通して～ ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発を通して保育者に必要な資質を身に付ける ・地域の子ども達との交流活動を企画運営し、フィールドワークを実施する ・活動内容をまとめ、学んだことや感じたことを発表する	分野5	友廣憲子 保育における音楽教育を考える ・さまざまな音楽活動のディスカッションを行う ・保育現場に出向き音楽活動を実践する ・音楽活動を実践し考察した内容をまとめ発表する	分野6	戸田恵理子 子どもとあそびについて ・子どもの主体的なあそびに大切な保育の環境を考える ・制作した保育教材を保育場面において活用し、改良点等の再考（再製作）を行う ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等に参加し習得した保育者に必要な要素をまとめ発表する	分野7	澤田須賀子 子どもの育つ保育環境 ・調査した内容を基に、実践・考察をする。 ・保護者へ伝える環境構成について考える	分野8	小浦康平 長崎短期大学ヴァーチャル幼稚園（仮） ・幼稚園の年間行事の疑似体験を題材に、パソコンスキルの強化をはかる。 ・年間スケジュールに沿って幼稚園の主要行事を計画・疑似体験・考察し、行事の前後に必要な書類の作成スキルを身につける。 ・成果物として、職場ですぐに役立つような保護者への手紙やポスター、園だよりなどをパソコンで作成しファイリングする。	分野9	藤野正和 子どもの心の発達と障害について ・子どもの心の発達に必要な要素について理解する。 ・子どもの心の発達と障害との関係について理解する。	分野10		分野11	
分野1	陣内 敦 造形を通した子育て支援 造形ワークショップ実践による子どもと子育て事情の理解について ・子どもや保護者とのコミュニケーション能力の涵養 ・研究成果レポート作成とプレゼンテーション																						
分野2	吉田美恵子 センス・オブ・ワンダー ・園訪問や子育て支援・地域交流に参加実践し、調査・考察をする ・文献や資料、講演会・研修などの記録をまとめ保育者の役割を明確にしていく																						
分野3	中尾健一郎 運動遊びによる実践活動 ・調査した内容から運動遊びを考案し、実践する ・実践した内容をまとめ、発表する																						
分野4	花城暢一 地域の子育て環境について考える～地域交流・フィールドワークを通して～ ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発を通して保育者に必要な資質を身に付ける ・地域の子ども達との交流活動を企画運営し、フィールドワークを実施する ・活動内容をまとめ、学んだことや感じたことを発表する																						
分野5	友廣憲子 保育における音楽教育を考える ・さまざまな音楽活動のディスカッションを行う ・保育現場に出向き音楽活動を実践する ・音楽活動を実践し考察した内容をまとめ発表する																						
分野6	戸田恵理子 子どもとあそびについて ・子どもの主体的なあそびに大切な保育の環境を考える ・制作した保育教材を保育場面において活用し、改良点等の再考（再製作）を行う ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等に参加し習得した保育者に必要な要素をまとめ発表する																						
分野7	澤田須賀子 子どもの育つ保育環境 ・調査した内容を基に、実践・考察をする。 ・保護者へ伝える環境構成について考える																						
分野8	小浦康平 長崎短期大学ヴァーチャル幼稚園（仮） ・幼稚園の年間行事の疑似体験を題材に、パソコンスキルの強化をはかる。 ・年間スケジュールに沿って幼稚園の主要行事を計画・疑似体験・考察し、行事の前後に必要な書類の作成スキルを身につける。 ・成果物として、職場ですぐに役立つような保護者への手紙やポスター、園だよりなどをパソコンで作成しファイリングする。																						
分野9	藤野正和 子どもの心の発達と障害について ・子どもの心の発達に必要な要素について理解する。 ・子どもの心の発達と障害との関係について理解する。																						
分野10																							
分野11																							
授業形態	演習																						
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得する</p> <p>②課題解決のための対応・判断方法などについて検討する力を身につける</p> <p>③情報収集能力を高めるために、タブレット等を活用し、多視的な観点によって課題を考察する</p> <p>④地域の保育現場で活用するための知識・技能を習得し、自らその習得内容を確認する</p> <p>⑤表現力や人間関係力を向上させ、他者理解を広げる</p>																						

	演習への取り組み、発表への取り組み、発表等の成果を加味し総合的に評価する 演習への取り組み（40%）、発表への取り組み（30%）、発表等の成果（30%）
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	各ゼミ担当教員が授業前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	